

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.26

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

「被災地の現状と復興の取り組みを学ぶ現地研修」を実施しました

1月17日と18日の2日間、平成25年度後期に全学共通教育科目の1つとして開設した「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を履修している学生の中から希望者を募り、「被災地の現状と復興の取り組みを学ぶ現地研修」を実施しました。

今回の研修には、授業を履修している学生に加え、実際に被災地でボランティア活動を行っている学生も含めて16名が参加しました。

釜石市・大槌町を研修先として、ものづくり産業や水産業の地元企業の方、行政職員の方、被災地で震災当時の様子を語り継ぐ活動をしているNPOの方など、様々な立場で震災からの復興に携わっている方々から、震災当時の過酷な状況や、復興の現状などについてお話をうかがい、仮設住宅も視察させていただきました。

また、宿泊先としてお世話になった釜石市内にある「宝来館」も震災で大きな被害を受けた施設の1つで、こちらでも震災の悲劇と教訓、復興に向けた地域コミュニティの大切さなどについて教えていただきました。

学生たちにとって、被災地の方の「生の声」を聞くことは苦しいことでもあったと思います。それでも、学生たちには今回の研修で感じた様々な思いを今後の学生生活に生かし、将来を担う人材として逞しく成長してほしいと願っています。

今回研修を実施するにあたり、多くの企業、自治体、NPOの方々にご協力いただきました。岩手大学は、人材育成という観点からも引き続き被災地の復興に力を尽くしてまいります。

【被災地研修に参加した学生の感想(抜粋)】

- ・研修を通じ、漠然と復興の手助けを出来たらいいなと思っていた気持ちが、復興者の一員になりたいという気持ちになった。
- ・震災復興の最前線にいる人たちの、想像をはるかに越える大変さが伝わってきた。
- ・これからも、学生が被災地にできることを探し、関わっていききたいと改めて思った。
- ・今後、遠い地域の人にも震災の記憶が薄れないように、この状況を伝える情報発信が必要であると感じた。
- ・大学生活は一番自由に様々な活動を行うことができる時期なので、勉強も含めて、将来の東北・岩手・沿岸地域に対し時間を有効に使っていききたいと切実に感じた。



旧大槌町役場の建物前でNPO法人おらが大槌夢広場の方に被災地を案内していただく学生たち

水産加工研究講演会 in 久慈を開催しました

2月1日、久慈市のロイヤルパークカワサキで「水産加工研究講演会 in 久慈」を開催しました。

この講演会は、水産物の加工に関して大学をはじめとする研究機関が持つ最新の研究事例を紹介し、久慈地域の加工業者とのマッチングを図ることで、競争力のある新商品開発・販路開拓・生産効率向上につなげ、今後の水産関連産業の更なる発展を目的として開催したものです。

講演会では、三陸水産業の復興に連携して取り組んでいる岩手大学、東京海洋大学、北里大学の研究者をはじめ、岩手県北広域振興局の方や岩手県水産技術センターの研究者から、作業効率化につながる最新技術等について紹介がありました。

岩手大学工学部の船崎健一教授からは、コンブの乾燥やワカメの芯抜きなどの研究成果について報告があり、東京海洋大学海洋科学部の鈴木徹教授からは、冷凍・冷蔵・解凍技術の現状について

紹介がありました。このほか、水産物への通電加熱技術に関する事例報告等も行われ、非常に内容の濃い講演会となりました。

この講演会には、水産加工品の製造・販売業者の方々をはじめ、約90名にご参加いただきました。参加者は、数々の研究成果の報告に熱心に耳を傾けていました。



水産加工研究講演会 in 久慈の様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、被災地の住宅移転に伴う地域の人々の社会関係の再構築や暮らしのデザインについて検討を進めている、生活支援部門地域コミュニティ再建支援班の活動の一例をご紹介します。

社会関係の再構築を目指したまちづくりのプロセスデザイン

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 地域コミュニティ再建支援班
三宅 諭 (農学部准教授/都市・地域デザイン研究室)

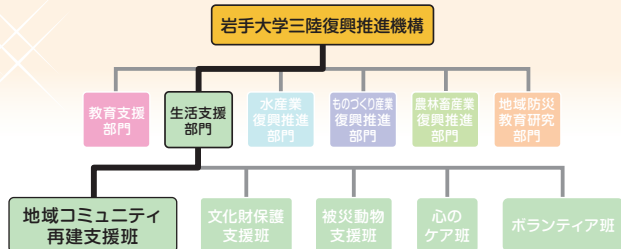
各地で造成工事が進められていますが、住宅の再建にはまだ時間がかかりそうです。その間に地域を離れる人もいるでしょう。しかし、沿岸地域に戻る理由がないのにもかかわらず、多くの人が元の地域に戻りたいと思うのは、新しい場所、人間関係構築への不安、長く暮らした場所への愛着とともに、コミュニティが暮らしやすさを支えていたことを再確認したからでもあります。復興は物理的空間を創り出すことだけでなく、そこを場として多様な関係性が構築されなければなりません。

我々の取り組みは、物理的空間を計画するだけではなく、そのプロセスの中で地域の人達が新しい空間の使い方や過ごし方などのイメージを共有するとともに、震災で失われた社会関係の再構築の手掛かりを得ることを目的としています。

野田村では住宅移転跡地を公園にする計画があり、大人だけでなく小中学生、高校生とも



新しい住宅団地の敷地模型を囲み意見交換の様子



検討を重ねてきました。小学生は花壇を、中学生は森を、高校生は専門性を生かして遊具等の工作物を設計しています。来年度からは苗の育成や部材加工を行い、再来年度には植樹と工作物の組み立てを予定しています。

また、移転先の住宅団地についても住民の方と暮らしのデザインについて検討会を行っています。図面や模型を使って空間の大きさ、敷地間の関係などを確認しながら新しい暮らし方をイメージするとともに、昔の暮らしの中で良かった点を反映させるための工夫を空間に反映させる取り組みです。密度の異なる暮らしでは新しい緊張が発生します。それを事前に予想しつつ、豊かな生活に繋げる試みです。

また、山田町の中心部や大浦地区でも事業者や住民の方とまちづくりの検討を進めています。その他にも都市漁村の体験交流プログラムの企画・実施も行っており、新しい交流と地域独自の取り組みが生まれることを期待しています。

復興への道はまだ長いですが、20年後、30年後を考えると、そこで暮らす人達を中心に豊かな社会関係を築く手掛かりや仕掛けを今からプロセスの中に工夫していく必要があると考えています。



体験交流プログラムとして企画した新巻鮭づくり翌年度には正式なプログラムとなった

大船渡エクステンションセンターだより

●世界13カ国600種のつばきの競演

現在、大船渡市の「世界の椿館・基石」では「いわて三陸・大船渡第17回つばきまつり」(会期：1月19日～3月23日)が開催されており、和洋多数のつばきが展示されています。土日にはさまざまなイベントが催され、「椿油搾体験」、「寄せ植え体験」、「つばきスイーツ販売」等の催事や、パッチワーク、七宝等の作品展示も行われる予定です。また、まつり期間中は、抽選で大船渡の特産品がもらえるスタンプラリーも企画されています。

「世界の椿館・基石」のホームページには開花情報も掲載されていますので、お目当てのつばきの開花に合わせて訪れるのも良いかもしれません。この時期でも比較的温暖な気候の大船渡ですので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



いわて三陸・大船渡第17回つばきまつり

●大船渡エクステンションセンターの活動

今回は、大船渡市三陸町越喜来(おきらい)にある田村蓄養場についてご紹介いたします。田村蓄養場はアワビを専門に取り扱う業者で、活アワビと干しアワビを製造しています。こちらで製造された干しアワビは、「キッピンアワビ」と呼ばれ、海外や横浜、神戸などの有名中華料理店の食材として使用さ

れ、その評価は揺るぎないものとなっています。「キッピン」という言葉の由来は、アワビの産地である吉浜(よしはま)の音読み「キッピン」と、中国で縁起が良いとされる「吉」をかけて「吉品干鮑」となると伝えられています。岩手県産天然アワビで製造された「吉品干鮑」ですが、最高級の食材として世界から認められてはいるものの地元では提供する飲食店がないため、一度も食べたことが無い人が多いようです。そこで、田村蓄養場では震災復興の一助として、地元の宿泊施設や飲食店に「吉品干鮑」を普及・定着させ、地元の方々に食べて頂ける環境をつくり、それが呼び水となって多くの人に三陸を訪れていただけることを目指して活動を展開しています。高級食材ゆえに地元普及には難しい課題もありますが、まずは第一歩として地元小中学校と連携し、調理実習で素材の提供と調理法の学習を行うこととなりました。子どもたちには自分の身近なところに世界があることを学び、地元へ愛着をもってもらうことを期待しています。大船渡エクステンションセンターでは、今後も販路の拡大や技術課題の解決に関する支援をしてまいります。



天候や湿度により細かい管理が必要となる干し作業の様子

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 大船渡エクステンションセンター

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町宇津野沢15大船渡市商工港湾部内
TEL：080-5745-9775 E-mail：ofunato@iwate-u.ac.jp

Information

岩手大学三陸復興推進機構 第2回心のケア班市民講座

こころのじかん



岩手大学三陸復興推進機構心のケア班では、市民の皆様、支援に携わっている皆様にご参加いただけるワークショップを開催します。

★3月12日(水) 13:30～15:30

こころと体の緊張をほぐすケア タッピング・タッチを覚えよう!
講師：土屋文彦(タッピングタッチインストラクター)
会場：釜石市 岩手大学釜石サテライト(釜石市平田3-75-1)

★3月20日(木) 15:00～16:30

こころを支える話の聴き方
講師：佐々木誠(岩手大学三陸復興推進機構特任准教授)
会場：釜石市 岩手大学釜石サテライト(釜石市平田3-75-1)

★3月18日(火) 15:00～16:30

震災を体験した子どもへの保護者の対応
講師：織田信男(岩手大学人文社会科学部教授)
会場：宮古市 シーアリーナ(宮古市小山田2-1-1)

★3月21日(金) 15:00～16:30

ストレスへの抵抗力を身につけようーリラクゼーション法へのお誘いー
講師：山口浩(岩手大学人文社会科学部教授)
会場：大船渡市 リアスホール(大船渡市盛町宇津野沢18-1)

★3月19日(水) 15:00～16:30

もっと笑いを！ユーモアと回復ー
講師：奥野雅子(岩手大学人文社会科学部准教授)
会場：陸前高田市 陸前高田まちづくり協働センター(陸前高田市高田町大字大隈93-1)

お問い合わせ・お申し込み

岩手大学釜石サテライト心の相談ルーム
電話：0193-55-5691 メール：heart@iwate-u.ac.jp

編集後記

今回の大船渡エクステンションセンターだよりでは、現在開催中の「いわて三陸・大船渡第17回つばきまつり」についてご紹介いたしました。つばきは品種によって開花のタイミングが異なるので、2度、3度と楽しむこともできるようです。寒いこの季節、岩手県の内陸部と比べ、温暖な大船渡へ訪れてみるのも良いのではないのでしょうか。

